

2017年11月26日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第464回)

さんぽかい

「京都一周トレイル (9年計画の第1回)」

京阪電車伏見桃山駅前、小さな標柱が立っています。京都一周トレイルの出発点を示すものです。

「京都一周トレイル」は、京都盆地を取り囲む山々を巡る総延長およそ80kmのハイキングコースです。

燦歩会は、9年かけてその全行程を歩こうと考え、手始めに、東山コースの内「伏見・深草ルート」9.5kmを歩きました。伏見桃山駅から伏見稲荷大社までです。

このルートでは、全部で35本の標柱が、道筋を教えてください。その1本目、伏見桃山駅前の「F1」からスタートして、東へ向かいます。

天候は晴れのち曇り、気温は8.6度。風は「静穏」。参加メンバーは19名です。(男性14名、女性5名)

ゆるい上り坂を進みます。この道は「大手筋」。豊臣秀吉の築いた伏見城の大手門に通じる道でした。(逆に西に下って行くと、市内随一の賑やかな大手筋の商店街です)

5分ほどで御香宮(ごこうのみや)神社に入りました。平安時代、境内から香りのよい水が湧き出し、それを飲むと病いが癒えたことから、清和天皇より「御香宮」の名が与えられたのだそうです。表門は伏見城大手門を移築した重厚なものです。国の重要文化財に指定されています。

この日境内は、七五三、お宮参りの人々で賑わっていました。名水は、今も参拝者が飲むことができます。甘みのある、美味しい水でした。

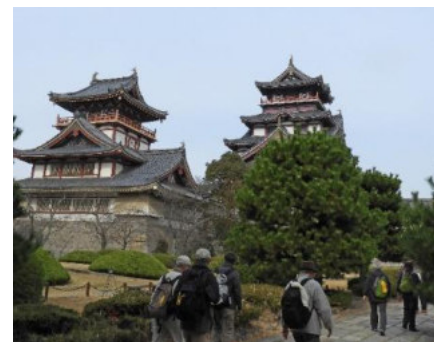
ゆるい坂をさらに上り、国道24号線(奈良街道)、次いでJR奈良線を渡ります。僅か500mの間に、鉄道3本(京阪、近鉄、JR)そして国道1本が走る、交通の要衝です。加えて伏見は、高瀬川や宇治川・淀川を通じて、京都~大阪への水運の要でもあったのです。



上り坂はいつしか玉砂利を敷いた広々とした道になり、更に登った奥まった所が、明治天皇陵です。墳丘は古式にならった上円下方墳で、下段の一边は約60m、上段の円い丘は6mほどの高さで、表面にはさざれ石が葺かれているのだそうです。

この辺りが、かつての伏見城の中心部で、廃城の後は、桃の木が多く植えられたため、桃山と呼ばれることになったのです。

今この丘陵には、2棟の天守がそびえています。1964（昭和39）年に開園した観光施設の模擬天守です。老朽化のため2003年に閉園となり、現在は運動公園のシンボルとして残されています。



桃山から、トレイルは北東の大岩山に向かいます。道の両側に竹林が続きます。いかにもおいしいタケノコの取れそうなよく手入れされた竹林と、生い茂るままになった荒れ果てた竹林、その落差には切ないものがあります。

大岩山頂（182m）にほど近い大岩山展望所で昼食休憩です。眼下には京都市街、遠くは大阪方向も見渡すことが出来ます。円内が先程の桃山城です。



大岩山を下り、伏見稲荷に向かいます。なだらかな丘陵からは思いも寄らない険しい下り坂。途中で不思議なオブジェに出会いました。大岩神社の結界の鳥居です。デザインしたのは、文化勲章も受章した京都の日本画家、堂本印象（どうもといんしょう）です。



まことに斬新なデザインの鳥居です。大岩神社は、古くから「難病の神」として知られていたようで、堂本は母親がこの大岩神社に参拝していた事から、鳥居を寄進したものです。

伝統的な日本画から、抽象画にも幅を広げた、堂本印象らしいデザインです。



堂本が生前自ら開館した堂本印象美術館の外壁も、この鳥居のデザインに通ずるエネルギーなものです。(美術館は後に京都府に寄贈され、現在リニューアル中で、来年春に再オープンするという事です)

大岩山を下ったトレイルは、名神高速道路の下をくぐり、北へ伏見稲荷に向かいます。ここで3名の会員が帰途につきました。

稲荷山の中には、修業の場が点在します。その一つ、白菊の滝へ。一筋の水の落ちる周囲に不思議な光景が広がっていました。建ち並ぶ石の鳥居、朱の鳥居、結界の朱の柵。流れ落ちる水の許に祀られる苔むした不動明王。神と仏一体の中で、行者は水垢離を取り、一心に祈ったのでしょう。

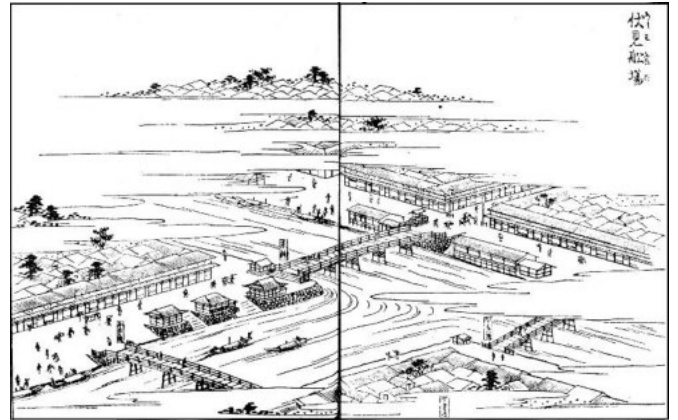


オーラ漂う行場から下ると、そこは朱の鳥居のトンネルに多くの参拝者がひしめく伏見稲荷。大混雑の中で、このルートの終点「F 3 5」の標柱は見つける事が出来ませんでした。予定よりやや遅れて、15時半に無事解散しました。

相変わらずの蛇足で失礼します。

伏見の戦い

豊臣秀吉から徳川家康へ引き継がれた伏見城は、1622年に廃城となり、伏見の町は政治・軍事都市から、港湾・商業都市に変貌します。都名所図会が、町の盛んな様を描いています。1840年頃の町の戸数は1万3千軒、人口は4万人を数えています。



そんな栄えた町伏見が、火に包まれたのは、幕末の動乱の中、1868（慶応4・明治元）年1月3日夕刻の事です。鳥羽伏見の戦いです。

京都へ上ろうとする幕府軍と、それを止めようとする新政府軍。伏見では、新選組を始め、幕府歩兵、会津藩兵などが、伏見奉行所を本営として立てこもります。御香宮から100m程南の所です。一方、新政府軍は薩摩・長州・土佐3藩の兵が、御香宮の線から、奉行所を取り囲みます。高まる緊張の中で、鳥羽から戦いは始まり、伏見では激しい市街戦になるのです。

幕府軍側は、未だに刀槍一筋の武士が多く、一方新政府軍は火力に優れ、薩摩藩などは御香宮から奉行所に向けて大砲を打ち込みます。

その中で伏見の町の南半分が焼け、幕府軍は、淀に向け敗走するのです。焼け残った町家の1軒が、今も料亭を営んでいます。その店の格子戸には、戦いの際の弾丸の跡が、残っています。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定

1 2月 納会

1月 道明寺天満宮で初詣（大阪）

2月 どんづる峰を訪ねる（大阪・奈良）

3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）

4月以降の予定は、来年初めに決定します。

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743 - 20 - 4159）
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島（おじま）幸弥 記